

門司港レトロめぐり海峡めぐり推進事業

Regional Development by the Promotional Project of Touring the Moji Port
Retrospective and the Kanmon Strait

小 田 原 清 則

By Kiyonori Odahara

1 はじめに

「昔、台湾から、内台航路の船で門司港に上陸したとき、私たちは目を見張りました。そうです、その頃の門司の町は生きていました。積荷の間を走る兄ちゃん達、街角でゴザを敷いていろいろ品物を売っているおばさん達、皆生きていました。私は、子供心に威勢の良い掛け声にホレボレとしたことを懐しく思い出します。このたびのレトロの復活で、この勇ましさが戻ってくればいいなあと、私は思っています。頑張ってください（門司区在住・70歳・主婦）」これは、昨年12月に届いた市民の方からの「門司港レトロめぐり海峡めぐり推進事業」にかかる強い願いと激励のお便りである。

このような市民の期待を背に、足掛け7年間を費やしたこの事業は、骨格となる門司港レトロ地区の歴史的建造物群の修復・竣工により、今年3月にグランド・オープンという形で新たな段階を迎えた。

かつて九州の流通・金融の中心都市として、また大陸貿易の拠点として繁栄を誇った面影を残す建造物群、瀬戸内海国立公園の西端に位置する関門海峡の雄大な景観、そこに秘められた歴史、これらの資源を新しい視点から捕らえ直し、都市型観光拠点として整備し、活性化を図るとともに、人々が親しみと誇りを持ち、また、魅力ある居住環境を持った地域として再生を目指すこの事業の概要を紹介する。

2 門司港レトロめぐり海峡めぐり推進事業の概要

(1) 対象地域

西海岸～門司港駅周辺～和布刈地区(約110ha)

*キーワード：地域計画、プロジェクト構築

** 北九州市経済局観光振興課観光課長

(〒803 北九州市小倉北区城内1番1号)

(2) この事業の背景

a) 第4次全国総合開発計画

多極分散型国土の形成、ふるさと創生事業等

b) 北九州市ルネッサンス構想

〔基調テーマ〕

水辺と緑とふれあいの国際テクノロジー都市へ
(国際的視野に立ち、この地の自然、歴史、文化産業集積、市民性などの資源を生かした都市再生＝北九州市ルネッサンスのロマンを、市民・企業・大学・行政が力を合わせて実現していくルネッサンス運動の理念の確立)

c) ルネッサンス構想における地域の位置づけ

○ 都市軸

東西軸(門司～小倉北～八幡東～八幡西)の東端に位置

○ まちづくりの方向

門司港湾・臨海余暇ゾーン

(港湾機能の強化＝門司港～田野浦～太刀浦、観光開発＝西海岸～和布刈)

(3) この事業の目的と意義

a) 事業の目的

港と歴史的建造物、関門海峡、和布刈の雄大な自然等の観光ポテンシャルを生かし、地区の景観空間、活性化機能を整備し、全国及び世界の人々が訪れる「新しい都市型観光拠点」の形成

b) 事業の意義

① 北九州市の観光振興の上で...

○ スペースワールドに次ぐ全国規模の観光拠点の創出～滞在型観光都市への足掛かり

○ 地域特性に根差したコンセプトの具体化～個性ある観光地づくりの先例に

○ 横断的な観光振興推進体制づくりの試金

石～庁内における“縦割り行政”の超克、“市民と進めるまちづくり”の理念と方法の具体化

② 広域行政の推進の上で．．．

○ 下関市の有する観光資源とのタイアップによる情報発信力の強化～関門の復権へ

○ 別府～大分～宮崎～鹿児島島の観光ルート化～東九州軸が抱える交通基盤整備等の課題の解決へ

③ 国際会議観光都市を目指す上で．．．

世界に知られた国際貿易港としての歴史～国際的なコンベンション等と連動した国際観光地としての発展の可能性

(4) この事業に関わる施設整備の概要

この事業は、自治省の「ふるさとづくり特別対策事業（＝狭義の「門司港レトロめぐり海峡めぐり推進事業」）を中核に、運輸省の港湾整備事業、建設省の街路事業、市単独事業等から成っている。

市街地のモール、広場整備	
レトロ広場	門司港駅前広場をレトロ調の歩行者中心の広場に再整備
大正ロマン通り	レトロ地区の中心通線として、修景整備
レトロプロムナード	ウォーターフロントの回遊性の高い歩行者動線として整備
帆船通り	周囲の景観と調和した舗装や街灯の整備
文化広場	エキゾチックな国際友好記念図書館を望む景観を重視した開放的な広場として整備
レトロ駐車場	レンガ倉庫の外壁を活用したレトロ調の駐車場の整備

門司第一船だまり周辺整備	
港湾緑地	市民が憩い集うことのできるアメニティの高いウォーターフロント緑地の整備
親水護岸	市民が水に接することのできる新しい親水空間の整備
可動橋（はね橋）	門司第一船だまり周辺の回遊性のための歩行者専用橋の整備
ボードウォーク	門司第一船だまり周辺の回遊性と親水性ある歩行者通路の整備（平成7年度以降）

対象建造物整備	
旧門司三井倶楽部 [観光・文化館]	国重要文化財。大正10年建築 本館：木造2階建スレート葺 付属館：木造平屋建棧瓦葺 （市が土地・建物を取得し、移築）
旧大阪商船 [海事・イベント館]	大正6年建築 木造2階建（一部RC） （市が土地・建物を取得し、修復整備）
旧門司税関 [休憩・展望館]	明治45年建築 レンガ造（内部は木造） （市が土地・建物を取得し、修復整備）
国際友好記念図書館 [大連歴史的建造物]	明治35年建築物の複製 西欧半木造構造式（レンガ、石木造構造） （市が土地を取得し、建物を複製整備）

和布刈地区周辺の整備	
第二展望台テラスデッキ	眼下に関門橋や堀之浦を望む展望台と山脈に、有田焼磁器タイルによる「源平裡ノ浦合戦絵巻」を表現
めかり回遊路	古戦場、唐人墓等の史跡を散策する通路整備
観潮遊歩道	海峡沿いに散策路を整備
デザイントイレ	関門橋下、和布刈山頂駐車場、ノーフォーク広場入口の3か所にコンペ形式によるデザイントイレを整備
駐車場	和布刈山頂駐車場・炭水プール横駐車場を整備
関門橋ライトアップ	道路公団の協力を得て、土・日の124日関門橋をライトアップ（平成5年12月から開始）

その他の観光関連施設整備	
観光案内板・誘導標識	JR門司港駅前に、準総合案内板・定点標識板・施設紹介板を設置。 車両系誘導標識(観光地案内)を新規3か所、名称変更12か所整備
観光案内所 飲食施設	JR門司港駅前、旧門司三井倶楽部内に設置 旧門司三井倶楽部内にレストラン、はな橋の秋に飲食ブース(5)、新浜2号休館所の飲食レストランへの転用

以上は、公共部門における施設整備の現状であるが、民間サイドにおいてもこの事業に呼応した動きがある。ここに、その一部を紹介する。。

○ JR門司港駅(大正3年建築)

現在使用されている駅で、国の重要文化財に指定されている唯一の駅。最近、往時の関門連絡船連絡通路を一部復元した。

○ NTT門司営業所(大正13年建築)

改修に当たり、建築当時の姿を再現。3階には電信・電話の発展の歴史が学べる「門司電気通信レトロ館」を開設した。

(5) 今後の施設整備計画及び構想(例示)

ア 集客力のある県立拠点文化施設の建設誘致

イ 第一船だまり周辺の「にぎわいの創出」

○ 3セクによるホテル・業務ビル・商業施設整備構想の具体化促進

○ ボードウォークの整備

○ トイレ・駐車場の整備・充実

○ 倉庫を活用した「交流・遊び・学び」の場の創出

ウ 景観整備計画の策定とその具体化

エ 和布刈地区との連携及び同地区の整備

○ 臨港鉄道を利用した「観光トロッコ列車」の実現

○ 西海岸～和布刈に至るサイン計画の策定と具体化

3 歴史と自然と文化の融合した新しい都市型観光拠点を狙って～ソフト面での取組み

(1) 基本的視点

次の整備イメージとしての3点を踏まえ、このまちの底力(ふるさとを愛する市民の熱意、類いまれなこの街の魅力)に依拠し、レトロ(大正ロマン、温故知新)を大切に保存・活用することを通して、ルネッサンス(この街の再生)を目指す。

① 歴史の息づく大正ロマンのまち

② 潤いと活気に満ちたウォーターフロント

③ 特色ある文化創造の拠点

(2) 当面(スタート段階)の取組み

a) “迎え水”としての行政の積極的支援

○ 観光施設相互の有機的連携による事業展開を図るための管理・運営の一元化

○ 観光客誘致宣伝活動(JR九州・スペースワールドなどと連携した大規模観光キャンペーンの実施、マスコミ関係者やエージェンツ関係者等を対象とした現地説明会の実施など)

○ 系統的・継続的な各種イベントの開催(レトロ・オープニングフェスタ、大道芸パフォーマンス、レトロコンサート、シーボルト・日本植物図譜展、レトロ絵画展など)

b) 地元商店街や地域住民との連携による推進体制づくり

○ 地元の“まちづくりネットワーク”、観光協会等と連携した「レトロイベント実行委員会」の設立

○ 「観る・観られるまちづくり」を掲げ、地元の画家や書道家などとタイアップした展示会の開催

○ ご当地ソング「門司港駅」の共同による制作と発表会の開催

c) ホスピタリティの向上を目指して

○ 観光案内ボランティアの活用

○ わかりやすい観光イラストマップの制作

○ 地元有志による「無料茶屋」の開設支援

4 今後の課題

- (1) 本市の観光振興ビジョンにおける当事業の位置づけの明確化
- (2) 観光振興と地域づくり（都市機能の充実＝生活の「遊」「学」「情報」「利便」）の一体的推進
- (3) 広域的・国際的な観光ルート化
- (4) 関連文化サービス機能の立地促進
- (5) 既存商店街等の再開発、新しい観光関連産業の立地促進

(6) この街ならではの歴史的景観の保存、伝統の継承等に関する支援・促進策の検討・実施

(7) 管理・運営の高度化のための庁内組織づくりと専門的な知識、経験を持つ人材の確保

(8) （社）北九州市観光協会を中心とする地元の推進体制づくりと地域定着化

これらの課題の内、最も重要と思われることは、観光振興と地域づくりの一体的推進に関することである。この事業の成否は、鳥瞰図的視点と虫瞰図的实践とをいかに統合し、現実を変えていく力に結実させていくにかかっていると言っても過言ではない。この事業に関わる人々の研鑽と外国や他地域から来訪する人々との交流を通じて、常に想像力と創造力を培っていくしくみが必要であると考えます。

5 おわりに

門司港レトロがグランド・オープンして既に5か月が経過しようとしている。この間、北は北海道から南は沖縄まで全国各地から多くの観光客が訪れている。これらの人々が観光案内所やアンケート調査にお寄せ下さるご意見やご批判、積極的なご提案に

謙虚に耳を傾け、改善すべきところは改善し、施策として採り入れるべきものは前向きに採り入れる姿勢で応えていきたいと考える。

地元では、手作りの絵葉書や民芸品などの新しい土産品開発の動き、商店街の空き店舗を活用した独自の観光案内所の設置、目覚ましい観光案内ボランティアの活動、門司港名物「バナナの叩き売り」の定期的公演、先に紹介したご当地ソングの制作など、内発的な観光振興に対する取組みが顕著になって来ている。冒頭に掲げた地元の女性の方もその輪の中でご活躍のことと思われる。この機運の盛上りに依拠しつつ、この事業を前進させていきたいと切に考えている。

【参考】 門司港見どころマップ

